

小児がんセンターたより



小児がんセンター各診療科の連携

神奈川県立こども医療センターには、小児がんに関わるいろいろな職種の方が働いています。今回は、各診療科の医師の連携についてお話しします。テレビドラマなどでは内科医と外科医の仲が悪かったり、なんてのがよくありますよね。

小児がんの患者さんは、たいてい他の病院から紹介されます。一報を受けるのは、当院では血液・腫瘍科、外科、脳神経外科、整形外科などです。ここで各科が協議をし、受け入れが可能かどうか（入院ベッドがあるか）を確認し、紹介病院にお返事します。

固形腫瘍（白血病などの血液腫瘍以外）の例を示すと、患者さんが到着すると、一通り診察して、紹介元の病院で撮影した画像の入ったCDを持って放射線科医のところに（通常は若い医師が）急行します。そこで小児放射線診断の専門医に画像を読んでもらい、さらに必要な画像診断(CT や MRI など)を予定します。生検（手術で組織を調べること）が必要になれば麻酔科に連絡し、手術の枠を確保します。生検の時に病理診断が必要ですので、病理診断医に連絡します。もとも心臓に病気がある子なら循環器科に連絡し、ぜんそくがあればアレルギー科に相談します。症状が重ければ集中治療科に相談してICUのベッドを確保してもらうこともあります。

これらの手配は、可能な限り初日に済ませます。そこでスケジュールを調整し、明日は追加の画像診断、あさっては生検、などというように計画を立て、主治医から患者さん・保護者にお話しします。

これらの連携がスムーズに、垣根なくできていることがこども医療センターの伝統であり、強みです。今回は診療科のみ書きましたが、看護、栄養、リハビリ、心理など各部門の連携も重要です。さらに入院してからも各診療科・部門の連携は続きますが、それは次回以降で。

小児がんセンター長 北河 徳彦



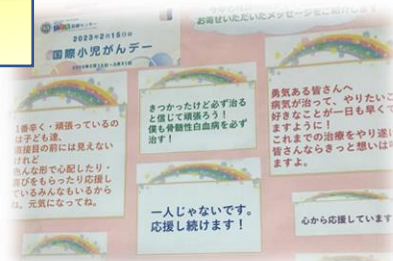
ゴールドライトアップで小児がんの啓発を！



毎年9月は世界小児がん啓発月間です。世界中で小児がんのこども達や経験者たちが世の中の理解を経て過ごしやすくなるように、その啓発活動が行われています。日本でもJCCG（日本小児がん研究グループ）や各種支援団体、そして行政も協力して、小児がんのシンボルカラーである「ゴールド」色にたくさんの建物をライトアップするイベントが行われています。

神奈川県立こども医療センターでも、今年初めてその活動に賛同し、病院正面入り口をゴールドにライトアップして、こども達の未来がこれからも輝き続けるように祈りました。点灯式イベントは悪天候のため中止となりましたが、病院に通うたくさんの方々に目を止めていただくことができました。院内廊下でも2月に開催した啓発イベントの様子や、多くの方に頂いたメッセージなどを掲示しました。このようなささやかな活動で、少しでも多くの方々に小児がんについて知ってもらえることを願っています。

院内廊下掲示物



左から血液・腫瘍科柳町医師・ファシリテッドッグアニー・総長黒田医師・院長後藤医師



日本小児がん研究グループ（JCCG）プレスに全国のライトアップの様子が掲載されています

小児がんに関連したご相談は「小児がん相談支援室」（本館 1 階 7 番窓口）までご連絡ください

時間：平日（月～金）8：30～17：00

相談方法：面談・電話・メール

電話：045-711-2351（代）

E-mail:shounigan@kcmc.jp



小児がん相談支援室 情報コーナー



～療養中の高校生などの学習について～

AYA 世代(Adolescent&Young Adult 思春期・若年成人)と呼ばれるがんの患者さんは、15歳～39歳といわれています。その中で、高校生など義務教育を終えた患者さんの学習の場が、どの施設や場所でも等しく提供できている状況ではなく、令和4年の「小児がん拠点病院の整備に関する指針」でも、そのことについて支援の強化が述べられています。学校によってはオンライン授業を受けられたり、課題の提出をもって単位と認められたりなど、少しずつ支援の輪は広がっていますが、全国的にも患者の数が少ないことにより、前例のない教育の場は戸惑うことが多く、患者さんが治療の合間などの良いタイミングで授業を受ける事は難しい状況もあるようです。

文部科学省では、このような療養中の高校生が単位の取得や進級に臨めるような支援のあり方を提言し、**高等学校段階の病気療養中の生徒に対するICTを活用した遠隔教育の調査研究事業***が行われています。

この事業に基づき各学校の方針で支援を行っている現状があります※文部科学省 HP 参照

こども医療センターでも、このような高校生などの長期療養中の患者さんに、**友達と一緒に学びたい、進級したい、大学に行きたい**などのご本人の希望を聞きながら、学校側と連携し支援を行っています。多くの学校側の理解だけでなく、世の中全体がそのことを理解し、患者さんが進学などの目標を持つことで治療に前向きに取り組むことができ、その人らしい生活が送れることを願い、今後も様々な形で支援を続けていきたいと思っています。


高校生の教育支援についてセミナーを開催します

長期療養中の高校生の教育保障を考える 2023
～好事例から考える、それぞれの支援者ができること～

2023年度小児がん相談支援室セミナー

2024年1月13日(土) 14時～16時

こども医療センター講堂+web
下記よりお申し込みください↓



みんなと一緒に勉強したい
進級したい、卒業したい
大学に行きたい

「小児がんセンターより研修会などのお知らせ」

- 2023 年度小児がん相談支援室セミナー
2024年1月13日(土) 14:00～16:00
- 小児がん啓発イベント
2024年2月17日(土) 12:00～15:00
新都市プラザ(横浜そごう地下) ※内容企画中!

お申込みはこちらから



※詳しくは、各施設に配布の案内もしくは小児がんセンターHPにてご確認ください

各部門からのお知らせ

～医療福祉相談室～

医療福祉相談室には6名のソーシャルワーカー（以下SW）が在籍しており、お子様やご家族が少しでも安心して治療・療養を受けていただけるよう生活上の心配なこと等に関して、お話をうかがいながら、一緒に考えさせていただいております。病院には様々な専門職がおりますが、SWは社会福祉の専門職になります。

具体的な相談は“治療をしながら学校にも参加したい”“退院した後の生活が心配”“利用できる地域のサービスについて知りたい”“安心して入院が続けられるように、病気に関連した医療費の制度や経済的な負担を軽減する助成金などの情報が知りたい”“同じ病気の仲間や、親の会について知りたい”など様々です。

とはいえ、一概に相談といっても、お子様の病状や治療経過はそれぞれです。また、お子様やご家族を含めた家族状況や社会的な背景も異なり、それに伴う生活上の課題もそれぞれです。そのため、一緒に考えさせていただくためには、困りごとや今後の不安、将来への思いなどについてお子様やご家族から教えていただくことが大切になります。その上で、話し合いの中で共有された課題の解決に向け、院内外の関係者や制度やサービスなどの社会資源の調整・紹介を必要に応じてさせていただきます。

SWとの出会いが、不安や悩みの改善、あるいは望む生活に近づくための一助になればと思います。治療中のみならず治療終了後の生活や自立などの人生を描いていくためのお手伝いもできればと考えておりますので、お気軽に相談してみてください。

医療福祉相談室

ご相談のある方は1階7番窓口で
お声掛けください
月～金 8:30～17:00



地方独立行政法人 神奈川県立病院機構
神奈川県立

こども医療センター
Kanagawa Children's Medical Center

【発行元】

神奈川県立こども医療センター小児がんセンター
〒232-8555 神奈川県横浜市南区六ツ川 2-138-4
TEL: 045-711-2351(代) Email: shounigan@kcmc.jp